# もっと若葉台を　　第２３回

「開発の歴史」

昭和４３年神奈川県住宅供給公社は、事業基盤となる事業用地確保に乗り出す。旭区上川井９０ha、緑区長津田４５ha が候補となる。４３年１２月買収交渉開始。公団の霧が丘買収が土地区画整理方式を取っていたので、全面買収方式の公社は交渉が難航した。長津田地区を諦め、上川井地区地権者には上白根に代替地を用意し４４年１１月大筋合意、買収は 49 年末に終了した。

４５年８月基本構想策定。計画目標は「自然尊重」「人間尊重」とし、植生の保存、オープンスペース確保、歩車道分離、スポーツ・リクレーション施設整備をし「美しい自然を極力保存しながら、郊外地の丘陵を高度に利用した都市型ニュータウン」を目指した。

４８年５月造成工事着工。八幡社、お稲荷さん、道祖神の遍挫有り。５１年１１月造成工事竣工。５２年住宅工事に着工。５２年８月第一住宅販売開始。５４年３月入居。計画戸数はは当初の 7500 戸から 6500 戸に減少大型化した。昭和６１年には高齢者住宅を計画。１２管理組合は平成元年入居、１５管理組合は８年入居開始。設備的には給湯のＴＥＳ方式、ＴＶ共同視聴方式、電話電線の地中化、中央監視センターが有る。

地域全体で建ぺい率１０％、容積率７７％、約９０ha となっている。